

GRADUATE SCHOOL OF
URBAN SOCIAL
AND CULTURAL
STUDIES

横浜市立大学大学院
**都市社会文化
研究科**



GUIDE BOOK 2027

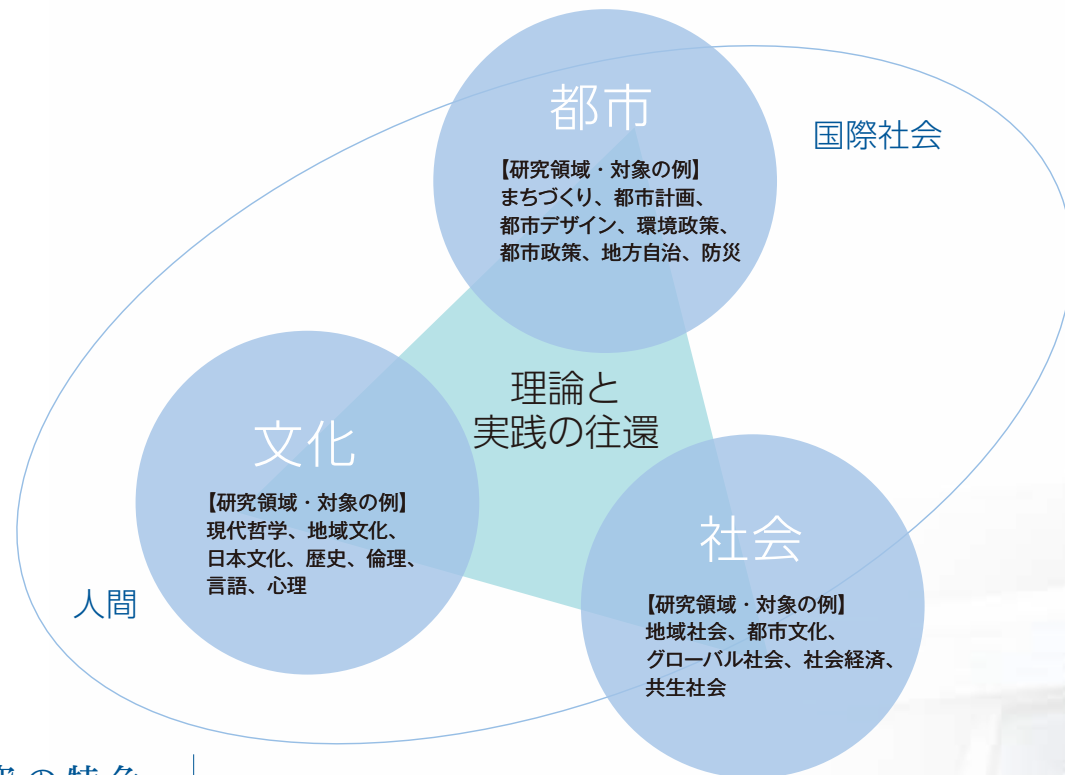
YCU
横浜市立大学

都市社会文化研究科とは

研究科の理念

人間や国際社会に対する深い理解に基づく、
現代都市社会の問題解決と新たな理念の創出

主要な研究領域である「都市」「社会」「文化」それぞれの研究ディシプリンを身に付けられる研究科です。また、それらの学際的融合領域に、人間から国際社会まで対象のスケールを問わず、「理論と実践を往還」しながら取り組むことができます。



研究の特色

様々な社会問題・研究課題に対して、学際的なアプローチによって取り組んでいます。

研究 テーマの例

- ・持続可能な都市づくり
- ・人口減少・超高齢化に対応したまちづくり
- ・子どもを産み育てやすい社会の形成
- ・地域社会の活性化
- ・グローバル社会の問題解決
- ・多文化共生
- ・社会文化の国際比較
- ・生命をめぐる医療科学の倫理

都市社会文化研究科のあゆみ

1949 (昭和24)年	新制大学として横浜市立大学設置
1993 (平成5)年	大学院国際文化研究科(博士前期課程)設置
1996 (平成8)年	大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置
2005 (平成17)年	大学法人化(公立大学法人横浜市立大学発足) 大学院国際総合科学研究科 設置(国際文化研究科、経営学研究科、経済学研究科、 理学研究科を統合)
2009 (平成21)年	大学院国際総合科学研究科を再編し、都市社会文化研究科を設置(生命ナノシステム科学研究科、 国際マネジメント研究科を同時に設置)

本研究科のめざすもの

都市社会文化研究科は、国際都市横浜の公立大学に相応しい大学院として2009(平成21)年4月に開設されました。前身の国際文化研究科、国際総合科学研究科国際文化研究専攻の時期から通算すると、すでに30年以上の実績を持ち、多くの修了生を社会に送り出してきました。

本研究科は、急速に変化する現代社会の諸問題について、都市・地域・国際社会の課題を中心に、人間と文化に対する深い理解から得た着眼点を踏まえて実践的に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

ICT(情報通信技術)は世界を瞬時につなげ、AI(人工知能)やDX(デジタルトランスフォーメーション)は、グローバル化とともに、これまでの人間観を大きく変えました。現代の都市社会に生起する複雑な課題に対し、構造的に掘り下げて把握し、長期的展望をもって解決の方向を見出すためには、特定の専門分野を踏まえた上で、その枠を超えた領域横断的・学

際的アプローチが求められます。また、具体的・現実的課題に取り組むにあたっては、人文科学の学問成果による人間の洞察にもとづく課題の検証や、課題の意味を解釈するための着眼点が必要となります。

本研究科は、このような理念のもと、現代社会におけるさまざまな課題について、学術的な観点による課題解決や問題の解釈を可能とする、多分野融合型の教育・研究体制を備えている点が大きな特徴です。

また、社会人の積極的な受け入れに取り組むとともに、地域社会における課題解決の実践力や問題意識を高めるための、産学官や地域社会と連携した教育プログラムや、学際性豊かな研究会を開催し、大学院生と教員、ゲスト講師との活発な研究交流を図っています。

本研究科の理念を共有し、広い視野と柔軟な思考力をもつ意欲あふれる学生のチャレンジを期待しております。

都市社会文化研究科長 中西 正彦



みなとみらい21地区



郊外住宅地図



横浜市立大学所蔵「再改横浜風景」

教育の特色

- 多分野融合型のカリキュラム編成
- 地域社会との連携
- 社会人の積極的受け入れ

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士(学術)
博士後期課程	3名	博士(学術)

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	次のような科目群によって構成され、2年間で合計30単位取得して修了します。	
	総合研究科目(2単位)	学外講師を招聘し、実践的関心の喚起を図る科目
	特講科目(16単位)	専門性を深める講義科目
	演習科目(8単位)	修士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目
	修士論文(4単位)	修士論文の提出により単位を取得
* なお、社会人学生を対象に、演習・修士論文の代わりに特別研究・研究報告書によって修了する方式もあります。		
博士後期課程	次の科目群から3年間で合計20単位取得し、博士論文審査を経て修了します。	
	多分野交流演習(2単位)	総合的・学際的視点の獲得を図る演習科目
	攻究科目(6単位)	各分野の専門性を深めるための講義科目
	研究演習科目(12単位)	博士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目

履修のイメージ

目的や研究上の関心に応じた授業科目の組み合わせが可能です。下記は博士前期課程での履修例です(科目名一覧は6ページ)。

グローバルキャリアをめざして学ぶ場合

- 総合研究科目(2単位)
総合研究科目:1
- 特講科目(16単位)
社会文化論特講:1(アジア文化論)、5(文化人類学)／海外地域論特講:2(アジア地域論)、3(アジア社会史)、4(イスラム地域論)／国際関係論特講:1(グローバル政治論)、2(グローバル経済論)、4(途上国開発論)

社会福祉を学び、研究報告書で修了する場合

- 総合研究科目(2単位)
総合研究科目:3
- 特講科目(20単位)
人間科学論特講:2(教育心理学)、3(発達心理学)、4(現代哲学)／言語文化論特講:1(国際英語論)／都市・環境政策論特講:2(地域ガバナンス論)、5(地方自治論)／地域社会論特講:3(教育行政論)、4(メディア社会論)、6(社会理論)／社会経済論特講:1(NPO論)

まちづくりを学ぶ場合

- 総合研究科目(2単位)
総合研究科目:1
- 特講科目(16単位)
まちづくり論特講:1(都市計画論)、3(市民まちづくり論)、5(防災まちづくり論)、6(不動産マネジメント論)／都市・環境政策論特講:1(SDGsと都市環境論)、2(地域ガバナンス論)、3(都市政策論)、5(地方自治論)

※ この他、演習科目(8単位)および修士論文(4単位)(修士論文で修了する場合)、特別研究科目(8単位)(社会人が研究報告書で修了する場合)の履修が必要です。

修士論文テーマ例 2025年度修了者

1. 小学校と就学前施設の立地特性が幼保小連携に及ぼす影響
2. 小規模自治体における自治体構造と関係人口政策の事例分析
ー長野県小布施町の「協働と交流のまちづくり」に着目してー
3. 移民の脱帰属化に関する一考察ー老年期を迎えたオールドカマー
ー在日コリアン二世の語りからー
4. 外国人ムスリマが日本社会で生きていくうえでの戦略や意味づけ:
就職活動・職場におけるヴェール着用／不着用をめぐる
5. アフガニスタンの女子公教育の現状と課題ーイランとの比較から
6. 長崎市中心部における観光客の空間認知構造ーメンタルマップを用いた調査から
7. 分譲積層団地の共用部分における高齢男性の人的接触の生成構造
ー住民参加による環境美化活動に着目してー
8. 東京都区部のサウナ施設の分布にみる余暇空間
ー施設類型と空間集積の分析ー
9. 「マジョリティの恐怖」の「感染」現象とそのトリガーの実証研究:
マジョリティの語りに着目して
10. 女性ファッション雑誌における望まれる女性像
ー家事に関する記事を中心にー
11. 中国と日本の女性に課される化粧を通じた美の規範と抵抗意識
ーSNSにおけるビューティートレンド流行語を対象とした批判的談話分析ー
12. 外国につながる子どもの地域日本語・学習支援における運営課題の再検討
ー神奈川県内の支援団体リーダーへのインタビュー調査を通してー

積極的に行われるフィールドワーク



都市社会文化研究科では、各教員の専門分野に即して、現場で学ぶ機会を大切にしています。
また、学際的で社会人や留学生も多いことから、多様な立場での学生間の議論も活発に行われています。



YCU Minatomirai Satellite Campus



みなとみらいサテライトキャンパス

2020年4月に横浜ランドマークタワー7階産学連携イノベーション拠点に開設された「横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス」でも授業を行うことで、金沢八景キャンパスとは異なる環境での学びを実現しています。



活発な学際的議論



学外向けのアドバンストエクステンション講座(公開講座)などの特別講義も行っています。第一線で活躍するゲスト講師と担当教員との対談形式で行うことで、現代社会が抱える様々な課題について、実践と理論の両輪で理解を深めることができます。



オンラインを活用した授業でも、学生間の活発な議論を促しています。

持続可能な地域社会プログラム（平日夜間 + 土曜日開講プログラム）

ポストコロナの時代に求められるあらたな人材育成として、幅広い基礎学力に支えられているからこそその実践を大切に、社会で、そして地域で実践できる人材の育成を目指したプログラムを2021年4月よりスタートしました。

プログラムの特徴

- 人文科学, 社会科学, 法学, 社会工学, 人間科学など様々な分野を学際的に学ぶ
- 現代社会の問題を知り、解決・予防する方策を学び、実践する力を身に付ける
- 原則、平日は夜間の遠隔授業、土曜日等は午前・午後の対面授業でプログラム修了

目指す地域社会

- 有限な資源を大切に、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会
- 市民、行政、民間企業、NPO、専門家等がそれぞれの責任を果たし、連携により築き上げる地域社会
- 文化、芸術、歴史等、地域特性を活かした、グローバル社会に対応した地域社会
- 理論に基づいた知見を基に実践し、暮らしの質の向上を目指す地域社会

学際的な研究会の開催

2021年度より「PPP・PFI研究会」が発足致しました。2023・2024年度は(財)民間都市開発推進機構から「PPP手法を用いた公的不動産マネジメントによるまちづくりの研究」というテーマで外部資金が採択され、実践的な研究に取り組んでいます。このほか、ジェンダー研究会や都市社会文化研究会など、研究科の教員・学生が参加する研究会を開催しています。

授業科目

※前期・後期課程とも、指導教員からの研究指導を受けます(演習・特別研究(前期)、研究演習(後期))。
指導を担当可能な教員は教員紹介を参照してください。
※この情報は、2026年度のものであります。開講状況は変更になる場合があります。

博士前期課程

総合研究科目

2026年度テーマ例

・ 研究と方法論 ・ 科学的研究法と測定法 ・ 都市デザインと創造都市 など

特講基礎科目

人間科学論特講

現代倫理学 教育心理学
発達心理学 現代哲学

言語文化論特講

国際英語論 アメリカ文化論
日本文化史 応用言語論
日本文化論 ヨーロッパ文化論
イギリス文化論 心理言語論
イギリス表象文化論

社会文化論特講

アジア文化論 多文化共生論
エスニシティ文化論 欧米社会論
文化人類学 日本社会史

まちづくり論特講

都市計画論

都市・環境政策論特講

SDGsと都市環境論 地方自治論

国際関係論特講

途上国開発論

特講展開科目

まちづくり論特講

都市解析論 市民まちづくり論
都市デザイン論 防災まちづくり論
不動産マネジメント論 都市空間形成論

都市・環境政策論特講

地域ガバナンス論
都市政策論 都市環境政策論
公共政策論

地域社会論特講

地域精神保健論 ライフコース論
教育行政論 メディア社会論
社会福祉論 社会理論

社会経済論特講

観光政策論 NPO論
共生社会の地理学 都市ビジネス論
経済政策研究(旧産業立地論)

海外地域論特講

文化交流史 アジア地域論
アジア社会史 イスラーム地域論
欧米社会史

国際関係論特講

グローバル政治論 グローバル経済論
国際機構論 グローバル平和論
国際関係論

博士後期課程

多分野交流演習

人間科学論攻究(1～8)

都市科学論攻究(1～6)

地域社会文化論攻究(1～9)

国際社会論攻究(1～7)

都市社会論攻究(1～8)

研究演習



SDGs のコンセプトに対応する授業



	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 持続可能な健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
中西 正彦 まちづくり論特講1(都市計画論)											●						
後藤 寛 まちづくり論特講2(都市解析論)			●	●				●	●	●	●	●					
三輪 律江 まちづくり論特講3(市民まちづくり論)			●	●	●						●						●
鈴木 伸治 まちづくり論特講4(都市デザイン論)											●						
石川 永子 特別研究Ⅲ			●	●							●		●				●
青 正澄 都市・環境政策論特講1(SDGsと都市環境論)	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大島 誠 都市・環境政策論特講3(都市政策論)												●					
青木 えり 都市・環境政策論特講4(都市環境政策論)			●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
新垣 二郎 都市・環境政策論特講5(地方自治論)											●						●
浮田 徹嗣 地域社会論特講1(地域精神保健論)	●		●														
中村 恵佑 地域社会論特講3(教育行政論)	●		●	●			●			●						●	
角田 隆一 地域社会論特講4(メディア社会論)				●						●		●				●	
根岸 弓 地域社会論特講5(社会福祉論)	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●		●	●	●	●
渡會 知子 地域社会論特講6(社会理論)	●			●	●					●	●						
吉田 栄一 社会経済論特講2(共生社会の地理学)	●	●						●		●							●
有馬 貴之 社会経済論特講5(観光政策論)			●					●	●	●	●	●		●	●		●
乙坂 智子 海外地域論特講1(文化交流史)													●				
小野寺 淳 海外地域論特講2(アジア地域論)	●	●							●	●	●						
柿崎 一郎 海外地域論特講3(アジア社会史)				●													
山崎 和美 海外地域論特講4(イスラーム地域論)				●	●					●						●	
山根 徹也 海外地域論特講5(欧米社会史)	●									●						●	
上村 雄彦 国際関係論特講1(グローバル政治論)	●	●					●	●		●			●			●	●
高橋 力也 国際関係論特講3(国際機構論)	●	●		●	●					●			●	●	●	●	●
西海 洋志 国際関係論特講6(国際関係論)	●	●		●	●					●			●			●	●
有馬 斉 特別研究Ⅱ																●	
江上 園子 人間科学論特講3(発達心理学)	●		●	●	●												
川瀬 和也 人間科学論特講4(現代哲学)				●	●				●	●						●	●
水倉 亮 言語文化論特講1(国際英語論)				●						●						●	
中谷 崇 言語文化論特講2(アメリカ文化論)	●			●	●					●						●	
松本 郁代 言語文化論特講3(日本文化史)					●					●	●					●	
土屋 慶子 言語文化論特講4(応用言語論)			●	●	●												
平松 尚子 言語文化論特講6(ヨーロッパ文化論)				●	●					●							
大西 寿明 言語文化論特講7(イギリス文化論)	●			●	●					●						●	●
有井 巴 言語文化論特講8(心理言語論)				●	●												
廣瀬 絵美 言語文化論特講9(イギリス表象文化論)	●			●		●				●	●					●	
藤井 得弘 社会文化論特講1(アジア文化論)				●													
滝田 祥子 社会文化論特講2(多文化共生論)				●	●					●						●	
坪谷 美欧子 社会文化論特講3(エスニシティ文化論)	●		●	●	●			●		●						●	
金山 泰志 社会文化論特講6(日本社会史)				●												●	

※この表は、研究科専任教員の専門分野と「SDG s 17の目標」を概観・網羅させたものです。各教員が担当科目授業内で扱う「SDG s 17の目標」はシラバスを確認するようにしてください。

修了後の進路

2023年度～2025年度修了者

株式会社八十二銀行
みずほ証券株式会社
日本生命保険相互会社
阪急阪神不動産株式会社
トヨタ不動産株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
株式会社長谷工コミュニティ
戸田建設株式会社

日本工営株式会社
小田急電鉄株式会社
八千代エンジニアリング株式会社
アクセンチュア株式会社
株式会社 DYM
株式会社ノジマ
株式会社内田洋行
株式会社ゼンリン

株式会社システナ
株式会社時事通信社
独立行政法人都市再生機構
横須賀市役所
藤沢市役所

活躍する修了生

マイノリティの生徒への視点と教育支援



渡邊 由紀夫

博士前期課程 2021年度修了
2025年3月末 神奈川県立横浜翠嵐高等学校退職
地歴・公民科 教諭 (退職時)

研究テーマ:日本の高校におけるムスリム家庭の生徒への理解と教育的課題: 宗教的配慮を要する生徒との共生

イスラーム地域の諸問題を研究する山崎ゼミに所属して、高校に在学する滞日ムスリム生徒を取り巻く様々な課題について研究していました。滞日ムスリムはこの10年で2倍以上に増加していますが、教職員のイスラームへの理解や教育環境の整備はあまり進んでおらず、どのような問題が学校で顕在化しているのか事例研究を通して分析していました。教職員やムスリム支援の関係者、滞日ムスリム生徒等へのインタビューを通して多くの方々のお話を伺うことができました。コロナ禍でもあったので時にはZoomも利用しました。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。

社会的な課題は、社会人として、働き、多様な経験をして初めて認識するものもあると思います。学術的なアプローチと視座の変化を、この研究科で多少なりとも身につけられたことが、向学心旺盛な高校生への授業展開の広がりにつながることができました。高校教員としての最後の勤務校であった横浜翠嵐高校では、世界や日本の社会的課題と社会的マイノリティへの視点を意識しながら、授業を進めることも多くありました。山崎先生をはじめ研究科の先生方と院生の距離も近く、幅広い専門の方々から丁寧なアドバイスをいただけることが魅力的でした。現在は、趣味を発展させるべく、横浜市の市民農業大学講座を受講し、2年間農業・園芸の基礎を学びます。大学院での研究テーマも地道に継続していければと考えています。学びに終わりはないので、社会人の方々も是非、チャレンジしてください。

都市と暮らしの課題に向き合い、持続可能な地域社会へ

研究テーマ:住宅地マネジメントの組織体制構築及び運用における行政と開発事業者の役割に関する研究

日本の戸建て住宅地におけるマネジメントの実態と課題を調査するため、全国各地の数多くの住宅地を指導教員とともに訪問し、インタビュー調査等を行いました。共有施設や共用空間を持つ計画的な住宅地では、マンション管理のような制度整備が十分ではなく、少子高齢化の進行に伴い多様な課題が生じていました。そこで、法制度や運営ルールが比較的に明確に整備されているアメリカ全州を対象に制度研究を行い、日本への示唆を検討しました。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。

大学院では、住宅地管理や法制度、海外事例比較等を対象に、データや現場の声に基づき課題を構造的に分析する力を培いました。こうした学びを通じて、複雑な社会課題に多面的に向き合い、根拠に基づいて解決策を示す姿勢が身につき、不動産の管理運営の実務にも活かされています。都市社会文化研究科には実務経験を持つ社会人学生も多く、多様な視点からの議論や意見交換は大きな刺激となりました。また、多様な専門分野の先生方が在籍しており、自身の関心に応じて幅広く学べる点も魅力です。在学期間中は多くの先生方に継続してご指導いただき、博士論文の執筆においても温かく手厚い支援をいただきました。理論と実践の双方から学べたことは、大きな財産です。



松林 優奈

博士後期課程 2024年度修了



まちづくり論特講



中西 正彦

NAKANISHI Masahiko

【研究分野】

都市計画、住宅政策

都市計画の制度論・計画論の観点から、人口減少時代に対応した都市のビジョンの描き方、都市構造再編や住宅地再生等の研究および実践活動を行っている。実際の街に触れ、理論と実践の両面からの解決策導出を指導方針としている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕都市計画論、演習

〔博士後期課程〕都市科学論攻究1、研究演習



後藤 寛

GOTO Yutaka

【研究分野】

地理情報システム(GIS)、都市解析、商業地理学

地理情報システムをはじめデジタルのツールと空間的思考を用いて、都市空間の編成の論理や商業機能の空間分布など、国際スケールから人間サイズまで幅広く、人文・社会的空間現象を再考するアプローチの研究を行っている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕都市解析論、演習

〔博士後期課程〕都市科学論攻究5、研究演習

三輪 律江

MIWA Norie

【研究分野】

建築・都市計画、参加型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学

各地で都市が縮小していく中、世代を超えた居住を実現するまちづくりを探索。フィールドワーク、セミナー活動など、行動力を発揮した研究活動を展開している。

【担当科目】

〔博士前期課程〕市民まちづくり論、演習

〔博士後期課程〕都市社会論攻究1、研究演習



鈴木 伸治

SUZUKI Nobuharu

【研究分野】

都市デザイン、歴史的環境保全、創造都市

都市空間の魅力を引き出す景観、歴史を生かしたまちづくりなど、都市デザインのあり方について研究に取り組む。近年は創造都市関連の研究、アジア都市における歴史的環境保全の研究へも幅を広げている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕都市デザイン論、演習

〔博士後期課程〕都市科学論攻究3、研究演習



地域社会論特講

浮田 徹嗣

UKITA Tetsuji

【研究分野】

臨床心理学、精神分析学、精神保健学

不登校や引きこもり、子どもの家庭内暴力に対する親の相談に際して、ロールプレイングなどの手法を用いるなど、さまざまな考察をするともに、精神分析的心理療法の再構築を目指す。

【担当科目】

〔博士前期課程〕地域精神保健論

〔博士後期課程〕休講中



中村 恵佑

NAKAMURA Keisuke

【研究分野】

教育行政学 教育政策・制度 大学入試

特に大学入試を対象に、その政策形成・決定過程(=政策が関係アクターによりどのようなプロセスを経て策定・決定されるのか)を分析することを通して、教育政策・制度の望ましい合意形成のあり方を研究している。

【担当科目】

〔博士前期課程〕教育行政論、演習



角田 隆一

TSUNODA Ryuichi

【研究分野】

社会学(文化社会学、現代社会論、メディア社会論)

ポピュラー文化や映像文化を事例とした近現代社会論。近年は「社会学的なフォト・プロジェクト」の実践と理論構築を重点的に進めている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕メディア社会論、演習

〔博士後期課程〕地域社会文化論攻究6



根岸 弓

NEGISHI Yumi

【研究分野】

社会福祉学(児童家庭福祉領域、社会福祉制度政策の国際比較)

望まない妊娠や子殺しを含む児童虐待関連政策を対象に、親密圏の暴力と社会介入について、ジェンダー、権利論等の分析視角から、現象の再解釈および制度政策の核となる指向性を研究している。

【担当科目】

〔博士前期課程〕社会福祉論、演習

〔博士後期課程〕地域社会文化論攻究2



石川 永子

ISHIKAWA Eiko

【研究分野】

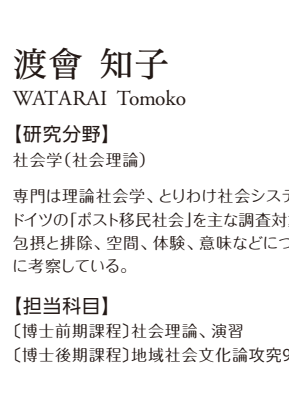
防災・復興のまちづくり、住居学、インクルーシブ防災

地震・水害対策と土地利用、事前復興まちづくり、災害後の住環境(避難所・仮住まい・住宅再建)と被災者の生活や心理、インクルーシブ防災について、フィールドワークや実践を通して研究。

【担当科目】

〔博士前期課程〕演習

〔博士後期課程〕休講

※2027年度入試は
学生募集停止

渡會 知子

WATARAI Tomoko

【研究分野】

社会学(社会理論)

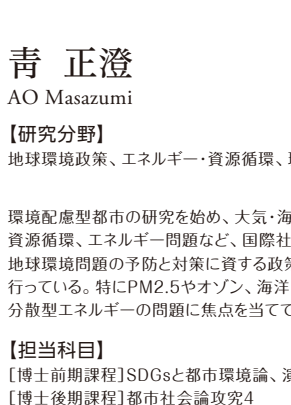
専門は理論社会学、とりわけ社会システム理論。ドイツの「ポスト移民社会」を主な調査対象としながら、包摂と排除、空間、体験、意味などについて理論的に考察している。

【担当科目】

〔博士前期課程〕社会理論、演習

〔博士後期課程〕地域社会文化論攻究9

都市・環境政策論特講



青 正澄

AO Masazumi

【研究分野】

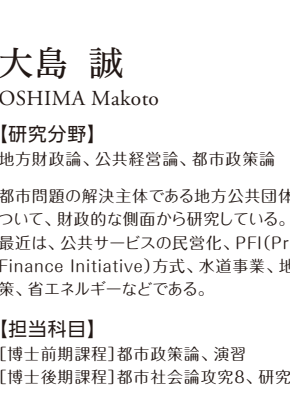
地球環境政策、エネルギー・資源循環、環境協力

環境配慮型都市の研究を始め、大気・海洋汚染、資源循環、エネルギー問題など、国際社会が抱える地球環境問題の予防と対策に資する政策研究を行っている。特にPM2.5やオゾン、海洋ごみ、分散型エネルギーの問題に焦点を当てている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕SDGsと都市環境論、演習

〔博士後期課程〕都市社会論攻究4



大島 誠

OSHIMA Makoto

【研究分野】

地方財政論、公共経営論、都市政策論

都市問題の解決主体である地方公共団体の活動について、財政的な側面から研究している。最近では、公共サービスの民営化、PFI(Private Finance Initiative)方式、水道事業、地域環境政策、省エネルギーなどである。

【担当科目】

〔博士前期課程〕都市政策論、演習

〔博士後期課程〕都市社会論攻究8、研究演習



青木 えり

AOKI Eri

【研究分野】

都市環境学、環境システム

都市環境政策の視点から市民の環境配慮行動について研究に取り組む。近年は、環境負荷低減と生活の質向上を両立させる生活様式や環境・SDGs政策の実践的な学際研究へも幅を広げている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕都市環境政策論、演習



新垣 二郎

ARAKAKI Jiro

【研究分野】

地方自治論、地方政治論、行政学

基礎自治体レベルの政策決定をめぐる首長と議会の関係性のあり方について研究している。近年は、自治体議会の行政監視機能と政策立案機能の実際の働きなど、制度が予定していない実態の解明に関心を寄せている。

【担当科目】

〔博士前期課程〕地方自治論、演習

教員紹介

社会経済論特講

有馬 貴之
ARIMA Takayuki

【研究分野】
観光地理学、観光政策論、観光教育

観光施設などのミクロな空間スケールから観光立国といったマクロな空間スケールまで、様々な空間スケールに合わせた状況把握手法、および政策やプランニングに関わるマネジメント手法について研究している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕観光政策論、演習
〔博士後期課程〕都市社会論攻7



吉田 栄一
YOSHIDA Eiichi

【研究分野】
開発地理学、アフリカ研究、都市研究、開発援助研究

途上国の地域開発（都市・農村）とその担い手（アクター）に関する研究。都市空間における社会的マイノリティに関する研究。

【担当科目】
〔博士前期課程〕共生社会の地理学、演習
〔博士後期課程〕国際社会論研究2、研究演習



海外地域論特講

乙坂 智子
OTOSAKA Tomoko

【研究分野】
中国前近代政治史

おもに13世紀から17世紀にかけての中国とチベットとの関係を研究。当時の中国域においてチベット仏教が政治的に重視された理由などを考察。

【担当科目】
〔博士前期課程〕文化交流史、演習
〔博士後期課程〕地域社会文化論攻3 研究演習



小野寺 淳
ONODERA Jun

【研究分野】
都市地理学、経済地理学、中国研究

地理学的なアプローチによって、現代アジアのダイナミズムを考察する。理論的な検討を深めるとともに、フィールドワークによる資料収集や現地調査も行い、実証的な研究へと昇華することを重視する。

【担当科目】
〔博士前期課程〕アジア地域論、演習
〔博士後期課程〕国際社会論攻4、研究演習



柿崎 一郎
KAKIZAKI Ichiro

【研究分野】
タイ地域研究、インドシナ交通論

交通という視点からタイを中心とする東南アジア大陸部の地域像の変容を解明する研究を行う。地域研究の手法で対象地域を多角的に研究することを重視する。

【担当科目】
〔博士前期課程〕アジア社会史、演習
〔博士後期課程〕地域社会文化論攻4、研究演習



山崎 和美
YAMAZAKI Kazumi

【研究分野】
イラン近現代史（女性史、教育史）
イスラーム地域（中東・北アフリカ・カフカス・中央アジア・南西アジアなど）研究

イランなどイスラーム世界の教育・女性・家族・子どもをめぐる諸問題について考察する。近現代イスラーム世界に関心を持つ学生が優れた論文を執筆できるよう指導する。

【担当科目】
〔博士前期課程〕イスラーム地域論、演習
〔博士後期課程〕地域社会文化論攻7



山根 徹也
YAMANE Tetsuya

【研究分野】
西洋史

ヨーロッパ、特にドイツ近現代史を専攻。近代市民社会の形成過程において、社会構造と統治形態が変化する中、支配層と民衆がどのような動きをしていたかなどを調査・分析研究を行う。

【担当科目】
〔博士前期課程〕欧米社会史、演習
〔博士後期課程〕地域社会文化論攻5、研究演習



国際関係論特講

上村 雄彦
UEMURA Takehiko

【研究分野】
グローバル政治論、グローバル公共政策論、グローバル・ガバナンス論

地球規模課題を解決し、持続可能なグローバル福祉社会を創造するために、グローバル・タックスなど必要な政策とガバナンス、実施主体に関する研究を行っている。（英語での開講可能）

【担当科目】
〔博士前期課程〕グローバル政治論、演習
〔博士後期課程〕国際社会論攻1、研究演習



高橋 力也
TAKAHASHI Rikiya

【研究分野】
国際機構論

国際連盟と国際連合を中心として、国際機構がどのような発展を遂げ、現代国際社会にいかなる影響を与えているかという問題について、主に歴史的な手法を用いて研究している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕国際機構論、演習
〔博士後期課程〕研究演習



西海 洋志
NISHIKAI Hiroshi

【研究分野】
国際関係論、国際政治思想、平和構築

国際秩序および国際社会の形成、維持、再構築に関する歴史的、理論的、哲学的研究を軸としている。また、「保護する責任」など、人道危機に対処するための国際的な取り組みについても研究している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕国際関係論、演習



人間科学論特講

有馬 斉
ARIMA Hitoshi

【研究分野】
倫理学

終末期医療の倫理問題（安楽死、尊厳死の是非）などを中心に、生命倫理、応用倫理学の研究をしています。講義や演習では、主に重要文献の輪読とディスカッションを行います。

【担当科目】
〔博士前期課程〕演習
〔博士後期課程〕人間科学論攻6、研究演習



江上 園子
EGAMI Sonoko

【研究分野】
発達心理学 家族心理学

「ヒトは一生をかけて発達を遂げていく」という生涯発達心理学の観点をもとに、人間の社会的な発達についての研究を行っています。殊に、親としての発達、養育信念と養育態度の関連などについて検討しています。

【担当科目】
〔博士前期課程〕発達心理学、演習
〔博士後期課程〕研究演習



川瀬 和也
KAWASE Kazuya

【研究分野】
哲学

19世紀ドイツの哲学者であるヘーゲルの哲学と、現代の分析哲学における行為の哲学をベースに、「人が生きるとはどういうことか」という問題に哲学からアプローチすることを目指している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕現代哲学、演習



教員紹介

言語文化論特講



水倉 亮

MIZUKURA Ryo

【研究分野】
外国語教育学、国際英語論

英語の国際的拡散による社会への影響について、批判的応用言語学の観点から分析している。特に、国際共通語としての英語、非母語話者の英語使用や指導、英語を媒介とした専門教育などについて研究している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕国際英語論、演習
〔博士後期課程〕人間科学論攻究5



中谷 崇

NAKATANI Takashi

【研究分野】
現代アメリカ文学

アメリカ文学、特にWilliam FaulknerおよびJohn Updikeを中心とした現代（第一次世界大戦以降）の小説、批評理論、編集文献学。制度としての「文学」を問い直すところにこそ文学はあると考えている。

【担当科目】
〔博士前期課程〕アメリカ文化論、演習
〔博士後期課程〕人間科学論攻究8

松本 郁代

MATSUMOTO Ikuyo

【研究分野】
日本文化史

日本における文化・思想史の研究を行う。特に中世の歴史史料や絵画、文学や聖教資料などの分析を通じてどのような時代的特質が見出されるのか、多角的な視点から考察する。

【担当科目】
〔博士前期課程〕日本文化史、演習
〔博士後期課程〕地域社会文化論攻究8、研究演習



土屋 慶子

TSUCHIYA Keiko

【研究分野】
言語と相互行為

談話分析、語用論等の言語理論を用いた、言語と社会相互行為の研究。チーム医療や多言語コミュニケーションの場での言葉や視線、ジェスチャなどのマルチモーダルな資源を用いたインタラクション、他者との共同行為に注目している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕応用言語論、演習
〔博士後期課程〕人間科学論攻究7、研究演習



社会文化論特講



藤井 得弘

FUJII Tokuhiko

【研究分野】
中国文学

中国近代における、異文化との接触によって生じた中国人のものの考え方や想像力の変化について、文学などを通して考察すること。とくに裁き物や探偵小説とその周辺に注目している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕アジア文化論、演習



滝田 祥子

TAKITA Sachiko

【研究分野】
社会学

国境を超えた人の移動を社会学的に分析し、多文化共生の可能性を探る。エスニック・マイノリティーの記憶の構造への関心から、個人が協働して社会を築いていく共生のあり方を模索する。

【担当科目】
〔博士前期課程〕多文化共生論、演習
〔博士後期課程〕国際社会論攻究3、研究演習

※2027年度入試は
学生募集停止

坪谷 美欧子

TSUBOYA Mioko

【研究分野】
社会学

国際社会学や移民研究を中心に、中国人の移動現象、団地における外国人住民の集住、外国につながる児童生徒の問題を中心に研究を行う。

【担当科目】
〔博士前期課程〕エスニシティ文化論、演習
〔博士後期課程〕国際社会論攻究5、研究演習



金山 泰志

KANAYAMA Yasuyuki

【研究分野】
日本近現代史

メディア史や文化史の視角から、近代日本における中国観（対中感情）の実証的把握を試みる。近代日本の他国・他者認識を問い直すことで、より良い国際関係（主に日中関係）を模索する。

【担当科目】
〔博士前期課程〕日本社会史



平松 尚子

HIRAMATSU Naoko

【研究分野】
フランス語文学、外国語教育

20世紀フランス語圏文学、特にマルグリット・ユルスナール著作における東洋思想の影響について研究している。またフランス語教育を中心とした外国語教育に関する実証的研究に取り組んでいる。

【担当科目】
〔博士前期課程〕ヨーロッパ文化論、演習



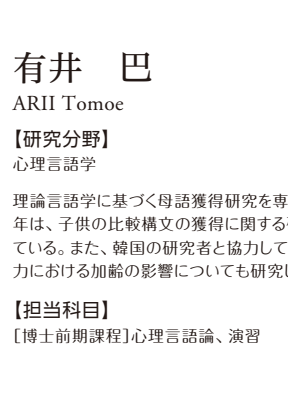
大西 寿明

ONISHI Toshiaki

【研究分野】
イギリス文学

戦間期のイギリス小説を男性性表象の観点から研究している。ジャンルにとらわれずこの時期の作品を網羅的に射程に入れ、男性性表象の傾向と特殊性を炙り出すことを目標としている。

【担当科目】
〔博士前期課程〕イギリス文化論、演習



有井 巴

ARII Tomoe

【研究分野】
心理言語学

理論言語学に基づく母語獲得研究を専門とする。近年は、子供の比較構文の獲得に関する研究を行なっている。また、韓国の研究者と協力して、文処理能力における加齢の影響についても研究している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕心理言語論、演習



廣瀬 絵美

HIROSE Emi

【研究分野】
イギリス表象文化

イギリスのフォークソングの継承過程に着目し、さらに19世紀及び20世紀の文学・文化・社会のなかでどのように表象されてきたのかを研究している。

【担当科目】
〔博士前期課程〕イギリス表象文化論、演習



在学生からのメッセージ

少人数だからこそ学びの場

■ 深作 祐衣 博士前期課程2年
横浜市立大学 国際教養学部 都市学系

私は、本学の学部4年次に早期履修制度を利用し、大学院へ進学しました。都市計画や地方自治に関してより専門的に学び、自分自身の考えを深めていきたいと感じ、進学することを決めました。

本学科の講義はほとんどが少人数で行われ、先生方やほかの学生と議論する機会が多くあります。さらに学生の中には留学生や社会人学生の方もいるため、様々なバックグラウンドの人との議論を通して、新たな学びや見方を得ることができると思います。また、実際に横浜市内でまちあるきを行い、都市づくりや“横浜”を体験的にも学ぶことができます。大きすぎないキャンパスや学科だからこそ、先生方やほかの学生と深く交流し、自分自身の研究をより追求できると感じます。



研究テーマ:地域主体のまちづくりプラン・ルールにおける行政の支援制度と運用実態に関する研究

2024年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2		演習I(対面)				
3						総合研究科目1: (対面)
4						総合研究科目1: (対面)
5						
6						
7		環境政策論 特講3(オンライン)				

後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						まちづくり論特講1 (対面)
2						まちづくり論特講1 (対面)
3						
4						
5						
6	まちづくり論特講2 (対面)	演習(対面)	環境政策論 特講5(オンライン)			
7						

マンツーマンによる贅沢かつ深い学び

■ 大森 貴弘 博士前期課程2年
法政大学 法学部 政治学科

私は新聞記者として働きながら、大学院で学んでいます。仕事で戦争関連の取材をすることが多く、その中に時々、創作と考えられる戦争体験の証言がありました。こうした創作が政治や外交の問題に発展したことも過去にはあります。そこで、その発生と拡散のメカニズムを解明したいと思い、本研究科の門をたたきました。オーラルヒストリーの分野で第一人者ともいえる指導教員の存在が大きな理由です。院生の在籍数に比べて教員の数が多く、これまでの授業はほぼマンツーマン、多くても数人という非常に充実した環境で学んでいます。先生方との濃密な議論の時間は、研究に反映させるだけでなく、今後仕事を続けていくうえで生かせるものばかりです。



研究テーマ:誰が戦争体験を創作するのか―発生・拡散・成立メカニズムの分析―

2025年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						総合研究科目1: (対面)
4						総合研究科目1: (対面)
5						
6						
7	演習I(対面)	社会文化論特講2 (対面)	まちづくり論特講3 (対面/オンライン)			

後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						総合研究科目4 (対面)
4						総合研究科目4 (対面)
5						
6	社会文化論特講3 (オンライン)		地域社会論特講4 (オンライン)			
7		演習II(対面)				



研究を豊かにする土壌

■ 柳瀬 健司 博士後期課程3年
早稲田大学 創造理工学研究科 建設工学専攻

自治体に職員として所属しながら社会人学生として入学しました。研究テーマは学部生の頃から取り組んできたもので、仕事で得た経験を生かしながら研究を進め、その成果を社会に還元したいと考えています。私の取り組む都市計画の分野は幅広い分野と関わりがあり、様々なバックグラウンドの先生方や仲間と出会えるYCUは、より社会的意義のある研究を行うために大変理想的な環境だと感じています。また何より、研究にまっすぐ真剣に取り組め、それをサポートしあう雰囲気が研究科全体から感じられることが大きな魅力です。地域との関わりが積み重ねられていることも、都市計画を実践的に研究する上での助けとなっており、YCUを選んだ大きな理由の一つです。研究は子育てをしながら取り組んでいることもあり、時間の確保などに苦勞する部分もありますが、YCUの環境を最大限味方にして、研究を前進させていきたいと考えています。

研究テーマ:郊外戸建住宅団地の維持・活用に向けた土地利用ルールのあり方に関する研究

2025年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						
6	都市科学論攻究5 (対面)	研究演習III (対面)				
7						

後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						
6		研究演習IV(対面)				
7						



研究支援制度と国際的なフィールドワークを通じた実践的な学び

■ MUHAMMAD AINUN FIKRI 博士後期課程3年
HASANUDDIN大学 都市・地域計画

本研究科では、魅力的な講義内容や専門性の高い教員による指導に加え、研究活動を支援する制度や資金援助が充実している点が大きな魅力です。そのため、日本国内にとどまらず海外での調査・研究に参加する機会を得ることができました。実際のフィールドワークを通じて、現地の都市課題を直接学び、視野を広げながら、自身の研究を深めることができている。これらの経験は、今後の研究や実務にも大きく活かされると感じています。

研究テーマ:六大都市における都市再生特別地区による開発と運用実態に関する研究

2025年度 前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						
6	都市科学論攻究5 (対面)	研究演習III (対面)				
7						

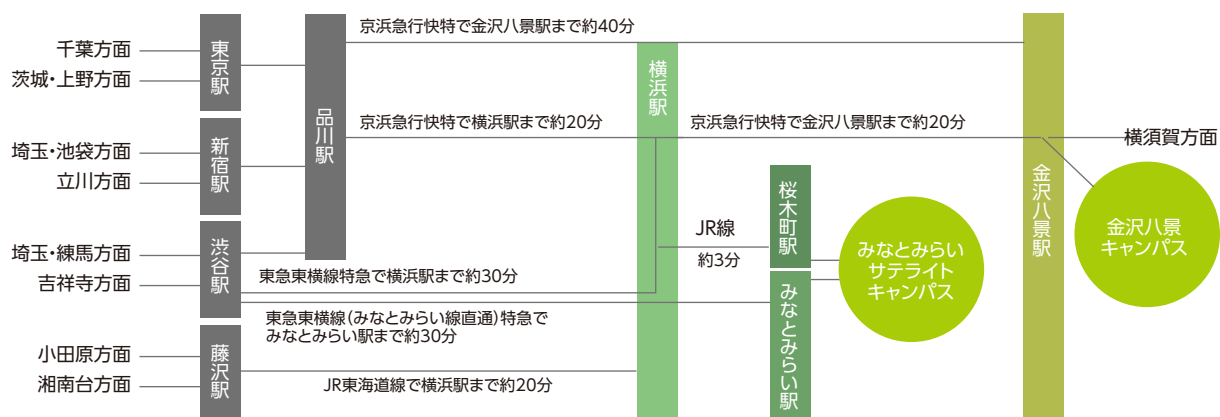
後期時間割

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						
6		研究演習IV (対面)				
7						

入試情報

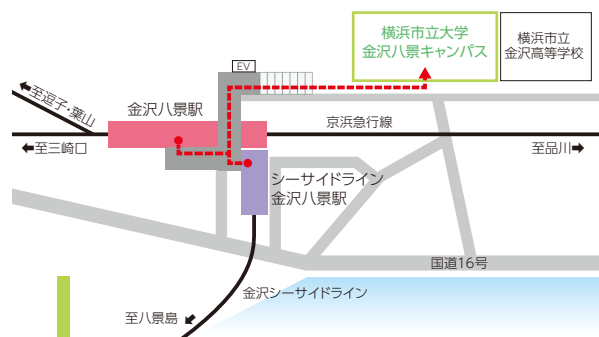


首都圏各地から金沢八景キャンパスおよびみなとみらいサテライトキャンパスまでの交通路線案内



記載の路線は代表的なもので、これ以外にもアクセス方法がございます。

都市社会文化研究科で主に利用するキャンパス



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
京浜急行「金沢八景駅」から徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」から徒歩5分



みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階
JR・市営地下鉄「桜木町駅」から動く歩道で徒歩5分
みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩3分

YCUその他のキャンパス

鶴見キャンパス

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29
(生命医科学研究科など)

舞岡キャンパス(木原生物学研究所)

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
(生命ナノシステム科学研究科など)

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9
(医学研究科など)

YCU
横浜市立大学

横浜市立大学大学院
都市社会文化研究科

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/index.html>

